

SPring-8 運転・利用状況

国立研究開発法人理化学研究所
放射光科学研究センター

◎平成 30 年 6～8 月の運転実績

SPring-8 は 6 月 4 日から 7 月 6 日までセベラルバンチ運転で第 3 サイクルの運転を行い、7 月 9 日から 8 月 7 日までセベラルバンチ運転で第 4 サイクルの運転を実施した。第 3～4 サイクルでは SR 六極電磁石電源 6 チョッパーモジュール電流異常によるビームアボート等があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間（ユーザータイム）内での故障等による停止時間（down time）は、第 3 サイクルは約 0.8%、第 4 サイクルは約 1.9%であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第 3 サイクル (6/4 (月) ～7/6 (金))

第 4 サイクル (7/9 (月) ～8/7 (火))

(2) 運転時間の内訳

第 3 サイクル

運転時間総計 約 768 時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約 48 時間

②放射光利用運転時間 約 713 時間

③故障等による down time 約 6 時間

④フィリング変更時間 約 1 時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム = ② + ③

+ ④）に対する down time の割合（*1） 約 0.8%

第 4 サイクル

運転時間総計 約 696 時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約 120 時間

②放射光利用運転時間 約 564 時間

③故障等による down time 約 11 時間

④フィリング変更時間 約 1 時間

総放射光利用運転時間（ユーザータイム = ② + ③

+ ④）に対する down time の割合（*1） 約 1.9%

(3) 運転スペック等

第 3 サイクル（セベラルバンチ運転）

・ 11 bunch train × 29 (C)

・ 11 bunch train × 29 (C)

・ 4 bunch train × 84 (B)

・ 11/29-filling + 1 bunch (H)

第 4 サイクル（セベラルバンチ運転）

・ 11/29-filling + 1 bunch (H)

・ 203 bunches (A)

・ 2/29-filling + 26 bunches (E)

・ 1/7-filling + 5 bunches (D)

・ 入射は電流値優先モード（2～3 分毎（マルチバンチ時）もしくは 20～40 秒毎（セベラルバンチ時）の Top-Up モード）で実施。

・ 蓄積電流 8 GeV、～100 mA

(4) 主な down time の原因

・ 緊急地震速報発報による非常停止

・ SR 六極電磁石電源 6 チョッパーモジュール電流異常によるアボート

2. 利用関係（JASRI 利用推進部 集計）

(1) 放射光利用実験期間

第 3 サイクル (6/5 (火) ～7/6 (金))

第 4 サイクル (7/12 (木) ～8/6 (月))

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン 26 本

専用ビームライン 19 本

理研ビームライン 12 本

第3サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数	330 件
共同利用研究者数	1,550 名
専用施設利用研究実験数	248 件
専用施設利用研究者数	1,043 名

第4サイクル（暫定値）

共同利用研究実験数	313 件
共同利用研究者数	1,386 名
専用施設利用研究実験数	226 件
専用施設利用研究者数	932 名

◎平成 30 年 8～9 月の運転・利用実績

SPring-8 は 8 月 8 日から 9 月 26 日まで夏期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業を行った。

◎今後の予定

SPring-8 は 9 月 27 日から 11 月 9 日までセベラルバンチ運転で第 5 サイクルの運転を行い、停止期間をはさみ、11 月 12 日から 12 月 21 日までセベラルバンチ運転で第 6 サイクルの運転を予定している。第 5～6 サイクルの運転実績については次号にて掲載する。

(*1) down time の割合に④フィリング変更時間は含まない。